



SAIJO
LIONS
CLUB

西条



ライオンズクラブ国際協会創立者
MELVIN JONES



クラブ終身会員 総本山仁和寺 第五十一世門跡 瀬川大秀様並びに
家族会員をお迎えして内部卓話例会開催

No. 522

12月号 2020

ライオンズクラブ国際協会 336-A 地区
2R4Z 西条ライオンズクラブ 広報誌



2020-2021 ライオンズクラブ国際協会会長 ジュンヨル・チョイ

テーマ 「 We Serve 」

2020-2021 ライオンズクラブ国際協会 336-A地区

スローガン「 Service Activity is the key to Lions Clubs 」

2020-2021 336-A地区ガバナー 酒井公一

スローガン「 誇り・進化・輝く未来に ウィサーブ 」
キーワード「 会員ファースト 」



2020-2021 西条ライオンズクラブ第60代会長 宮崎英明

スローガン「 感動で 一つの心 We Serve 」
キーワード「 絆 」

10月第2例会内部卓話



終身会員 瀬川大秀

先日、10月20日（火）の例会に久々に出席をさせていただきました。宮崎会長とは中学時代からの友人関係であり、特別に内部卓話をさせていただきました。ありがとうございます。今、社会に目を転じまいと、未曾有のコロナウィルス禍の中で、規制された新しい生活を余儀なくされており、又、一方では人間の真価を問われているような毎日です。

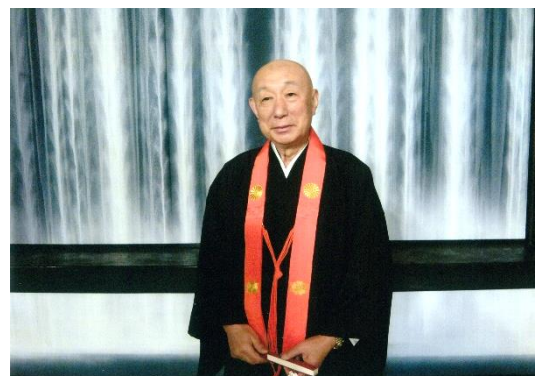
私は京都世界文化遺産、門跡寺院仁和寺に住持して10年が過ぎようとしております。

愛媛県西条市と京都仁和寺との往復を繰り返していますが、その間に西条ライオンズクラブ会員の皆様には仁和寺へお越しいただき友愛の大切さを実感致しました。

「歳月は人を待たず」故事の句のように、時間は流れる水のように過ぎ去り歳をとります、その中で自分の人生に、花を咲かせ少しでも心豊かに生きたいと願います。そのためには、自らを深める場所と時間が必要になります、人は人中・・・多くの人と話接することで勉強になり視野も広がります。それらの体験により自らの価値観が変化して、何でもないと思っていたことに気配りができ感謝ができるようになります。その場がライオンズクラブ活動ではないでしょうか。少し話に力が入りましたが・・・、健康が一番です、これから寒くなりますがお元気で、ご活躍をお祈り申し上げます。

先日、10月25日（日）に高野山へ参拝いたしました、空海「弘法大師」が醍醐天皇より弘法大師号を下賜されて、今年には1100年になり、奥の院では大師号下賜1100年記念法要が盛大に執行され参拝させていただきました。

さらに、紅葉の美しい参道を散策して総本山金剛峰寺の広間に千住博画伯が3年の歳月を経て描かれた襖絵を祈念奉納された宝を、特別に高野山金剛峰寺の重役、僧侶により丁寧に案内していただきました。今年も残すところ2ヶ月余りになりましたが、西条ライオンズクラブ会員として、末永くご指導賜りますようお願い申し上げます、又お会いできる日を楽しみにいたしております。





第2回336-A地区 GMT・GLT・FWT・会員会則常設委員会（11月14日）

第1回336A地区 GMT/FWT 研修会（11月15日）

2R GMT・GLT・FWT・会員会則委員

今岡 正士

11月14日に高知プリンスホテルにて第2回336-A地区 GMT/GLT/FWT 会員会則委員会が行われました。昨今のコロナ禍により、全国的に会員減少が顕著に表れているのが現状です。地域によって格差はありますが、今後会員拡大は、ライオンズクラブを運営していくには欠かせない重大課題であります。まずは、コロナ禍によるドロップアウトをどう防いでいくかを再重要課題として議論致しました。GMT・GLT 橋本コーディネーター、池本会員会則委員長からも「まずはコロナ禍によって退会者をどう防ぐかを最優先に各クラブ知恵を絞って対策をお願いしたい。飲食業、観光業、ホテル業などコロナ禍の影響をもろに受けているメンバーにはコミュニケーションを密にとり、クラブ内で協力して積極的に助け合いを行って退会防止につなげて頂きたい。同時に一人3名の声掛け運動の徹底を厳しい状況下ではありますが、メンバーの皆さんに協力をお願いして下さい」との事でありました。その件につきまして1R～9Rの会員会則委員の方と意見交換を致しました。

クラブを活性化するには会員拡大は欠かせません。「数は力なり」です。奉仕活動やアクティビティにしてもメンバーの数によって事業の規模も違ってきます。クラブを維持していく為には今が正念場ではないかと思えます。それと同時に仲間の絆を構築し、楽しいライオンズ活動を行っていければと思っています。

11月15日には336-A地区の各クラブ117名の会員委員長が一同に集まり、研修会を行いました。特に GMT（会員拡大）FWT（家族会員・女性会員）の拡大についての研修が中心となりました。まず冒頭に336A地区酒井公一ガバナーより「クラブをどうやって守っていくか。」

「減少をどうやって食い止めるか。それには、会員拡大しかない。自分がライオンズクラブに入会した時の事を今一度思い出し、どのように声をかけられ入会を決断したかを思い出し、同じように同じ

志を持つ人に一人3名以上に声掛けをお願いすれば、必ず私どもの仲間になって頂けると確信しています。」と力強い挨拶を頂きました。

さらに講演では「会員増強と指導力育成について」という演題で講師に元336A地区ガバナー眞鍋隆 GMT コーディネーターによる講話を拝聴致しました。まずは、成功失敗関係なく、聞く耳を持ってください。そして、苦しい状況のメンバーには励ましの言葉を友としてかけてあげてください。とメンバーの絆を強調して話していただきました。

その後、演題「奉仕と会員増強の両輪」と題して FWT 日本エリアーダーの長澤千鶴子様による講演がありました。長澤様には女性を中心とした会員増強、クラブ支部作りについて講話を頂きました。これからのクラブ運営にはフットワークのいい女性の力が必要です。女性会員の増強、クラブ支部作りの重要性をご説明していただきました。

やはり、私たちライオンズクラブは奉仕活動とアクティビティ、自己研鑽、人脈作りによって成り立っています。クラブの皆様簡単に会員増強をお願いすることは難しいことだとは思いますが、クラブを存続していくためには会員（仲間）を増やしていくしかないことをわかっていただくしかありません。数が多ければ、大きな奉仕活動やアクティビティに発展していきます。さらには人脈もできます。クラブ運営には会員増強が欠かせないことをクラブ会員の皆様をお願いする所であります。コロナ禍で厳しい状況ではありますが、「あの困難があったからこそ今がある」と思えるように、前向きに会員拡大にご協力お願い致します。



With コロナ への挑戦

With コロナにどう向き合うか

日野 求

『新型コロナは収束したものの、終息はしていない』

テレビ放送などでは連日各地で散発的にクラスターが発生していると報道されています。まだ1年以上続く新型コロナとの共存をどう向き合えばいいのか、研究者でもカウンセラーでもない私には分かりません。インターネットで検索して調べた文書を引用します。

『感染の持ち込みを完全に防ぐことは出来ない』

地震や水害などの自然災害と似ているらしい。「防災」ではなく「減災」、発生した災害を最小限に抑えることが大切。周りに感染者がいたとしても、感染拡大を最小限に食い止めること。その為には日常的に三密を避け、接触感染や飛沫感染が起こりにくい環境や関わりを意識する。出来るだけマスクを着用。加湿や薬剤噴霧よりも窓を開けて喚起する方が安全で健康的らしい。

『我々が闘う相手はウイルスであり、この時代を共に生きている人々は皆同志である』

先日、大阪市在住の妹が咳と発熱、濃厚接触の疑いで PCR 検査を受けました。旦那、子供達は無症状でしたが、陰性結果が出るまでは不安や恐れを体験したと思います。濃厚接触者や陽性者になった時の取る手段や対応を理解しておくことが必要です。そして、感染してしまった人を責めたりせず、情報を共有して一緒に感染症と戦う心がけを大切にしたいと思います。



水の都西条と言われ、水は豊富で清流と其の恩恵は日ごろ忘れがちですが、其の恩恵は先人の苦勞と知恵と努力の御蔭だと、ほんの一部ですが知って頂きたく掲載させて頂きました。

西條地方を育てた加茂川は西日本最高峰である石鎚山に源を発し流長は約 30Km 流域面積 200Km² の二級河川です。加茂川は古くは八堂山あたりから御舟川へ乱流し、たびたび洪水による災害をもたらしていました。改修前は八堂山から神拝方向への流れと御舟川へ流れる二筋があったと思われます。八堂山から北へ向かった地域が釜の口、川原、前川原、西之川原、岸蔭、小川、清水、善恵川など、大町から西には河原町、喜多川、上川原、古川などの川にちなんだ地名が残されています。慶長5年加藤喜明は関ヶ原参陣の後、伊予松前城から松山へ移り、西条地方を領有することになりました。この頃、領主加藤喜明の計画、施政方針と、奉行足立重信(加藤喜明の家老、重信川改修責任者)の設計指導、僧侶常眞(地区名に大町常心として残る)や豪商木村子信近などの協力によって、加藤喜明の治下で、右岸八堂山のふもとを過ぎた最上流に福武堰がもうけられ、その下左岸に中野村、洲之内のため桜木堰がありました。大町堰はさらにその下にありました。このように洪水対策をし、土地が開拓され、かつ美由を得、この西条地方を安住の地となし得たようです、しかし自然の猛威は幾度となく襲来し、其のたび堰をきり城下への洪水を防いだそうです。加茂川の流れは短く流域面積は狭く大雨の際は洪水を頻繁に起こしました。加茂川改修の功勞者たちは加茂川の流れを八堂山のはずれから北に流れ、御舟川の方角で海へ注いでいたものを、現在の加茂川の流れに移し変えたようです。現在残る川の流れは八本で神戸地区を流れる江川、加茂川本流、御舟川、渦井川、室川等です。

西条のように広い自噴地帯は、現在、国内ではほとんどなくなっているようです、このように上流では清流を好む魚が群れ、中流では夏の川遊び、いもだき、秋祭りの川入りが催され、下流では大きな干潟を形成し渡り鳥が羽を休めます。加茂川は西条を育てている「母なる川」と言えるのでしよう。



伊予西條遺産

<乱流だった加茂川>

時は徳川家康の江戸時代、慶長年間に領主加藤嘉明らの普請奉行（ふしんぶぎょう）足立重信らの計画で水害を防ぐ為に加茂川の改修工事が行われた。当時は今の加茂川と違い、中野の船形より下で9カ所ほど川が乱流していた。（当時の川の資料が参考資料①の写真）

<水越（みずこし）と水吐（みと）について>

加茂川は二重土手（今でも名残があり）となっており、神戸の中西あたりに水小屋があった。水小屋にはたいまつやあき俵などを入れ置き、加茂川が出水の時には御晋請方、御代官などの下役より近所の村役人百姓など、みなここに集まって水が溢れて危うくなれば、神戸側の堤を38間（約70m）を切り崩して（水越と言う）、神戸橋は水びたしとなる。その水を海に戻すために堤を同じ38間切って海に返した。これを水吐と言う。このようにして、陣屋や城下町を守った。

<おやぶ>

加茂川の川沿いの所々に竹やぶがあって、水防資材を得る目的で番人を付けて保全に当たらせていたことが伝えられている。徳川時代の記録に「おやぶ」と記され今もお「やぶのうち」の地名が残っている。



（参考資料

②）

緑枠が自噴井戸分布範囲

<地下水>

石鎚山は1400mmの雨が降るのに加茂川のような小さな川は全国的にもめずらしい。なぜか？という平野に出ると沢山の水が地下に潜って地下水となるからである。地下水槽は約800ヘクタールほどある。これが全国的にも珍しい打ち抜きを生むのである。

（地下水槽がある。参考資料②の写真）



2020～2021年度のグローバル優先項目

【 元気なクラブ 】

LION in JAPAN

クラブの健康を保つことは依然として大切です。ただ、元気なクラブの姿はこれまでと少し異なるかもしれません。今日、元気なクラブは安全に奉仕する方法を見つけ、限られた数のメンバーで現場に駆けつけています。元気なクラブはオンラインで例会を開き続けています。ライオンズの持ち味であり喜びでもある、素晴らしい労力奉仕の現場に私たちが戻る日は必ずやって来ます。しかし、その日までは、すべてのメンバーが「大切にされている」「居場所がある」と感じられるようなクラブづくりを心がけ、今日の、明日の奉仕に向けて、準備しようではありませんか。



スポンサークラブである《新居浜ライオンズクラブ》が
この度60周年を迎えましたことに心よりお祝い申し上げます

「新居浜ライオンズクラブ60周年記念式典に参加して」

安藤憲正

11月14日（土）会場の「あかがねミュージアム」では万全のコロナ対策がとられ、式典がスタートした。

大会委員長・会長・来賓と重みのある挨拶が続き粛々とプログラムが進行、講演会や祝宴へと流れた。この一連はさすが私たちの親クラブ、レベルの高いものだった。ふんだんな資金投入で細部まで華やかに演出された式典を、来年の当クラブ記念事業ではどの程度までおさえながら、しっかりと結実させるかが知恵の絞りどころだと感じた。

祝宴のオープニングではえひめ学園の和太鼓演奏が披露され、ソフトボール大会等で長年交流を続けきたつながりを温かく思った。

感動したのは、全盲のヨットマン・岩本光弘氏の講演会「絶望を希望に変える生き方」である。新居浜東高校ヨット部や子供たちを招待して話が始まった。

岩本氏は13歳から視力が低下、16歳で全盲になってしまった。絶望の日々が続いたが「見えなくなったことには意味がある。できないことが、ずっとできない訳ではない。どうしたらできるのか。」と考えるようになったという。

英語塾に通い、アメリカに留学。盲学校で教員として勤めながら大学院で心理学を学び、本格的にヨットも始めた。ヨットで太平洋横断する話にはハラハラしたが、前向きに努力する岩本氏には必ず協力者が現れ、共に努力を重ねて夢を叶えていった。

氏の言葉「あなたの周りに困った人がいた時に、あなたは、人に迷惑をかけるからやめろと言うドリームキラーか、どうしたらできるかと一緒に考えるドリームサポーターか。困難をかかえた人の将来の成功のために、ぜひドリームサポーターになっていただきたい。」が印象的だった。





西条ライオンズクラブ会員募集中!!

ライオンズクラブとは

世界最大の社会奉仕団体のことです。
世界で約210の国または領域にあり46,000を超えるクラブが存在し、135万人以上の会員がいます。
あなたも世界の一員になりませんか。

西条ライオンズクラブは

国内で334番目、愛媛県下では9番目のクラブとして結成されました。「We Serve～我々は奉仕する～」を合言葉におなじ志をもつ仲間同士が集まって奉仕活動を行っています。

人の為に、社会の為に、一人ではできないことを、出会いを通して集まった会員が力を合わせて、それぞれの地域において社会奉仕に貢献していこうという団体です。



ドイツスポーツ少年団との交流

ほのほのシリーズ

【わたしの好きなもの】



No. 23 曾我部克正

①好きな食べもの

お肉全般・お魚全般

②好きな本

PHP (パナソニックのお店の定期購読本)

③好きな車

スバル サンバー (軽トラック)

④好きな場所

甲子園・京セラドーム

⑤好きな歌

クィーン・ヒューイルイス・浜田省吾

HOUND DOG・ドリームカムズトゥルー

BOOWY (コンサートに行き大好きになりました)

⑥好きな映画

「男はつらいよ」※寅さんの口上が大好き!

「仁義なき戦い」

※金子信雄が大好き!



編集後記



このたび伊予西條遺産で、私は加茂川の洪水(堤防決壊)を担当いたしました。自分が生まれた西条の歴史なのに、加茂川の乱流の事、小部落の地名の由来など知らない事だらけでした。もっと多くの事を知り、伝えてゆきたいと思いました。

さて今月号は2020年も最後の広報誌です。2020年はオリンピック year の年始を迎えましたが、コロナと言う世界を脅かす感染症で、オリンピックが延期となり世界的にも経済不況をもたらしました。2020年度の流行語大賞のノミネートでもアベノマスク・オンライン・クラスター・GOTOキャンペーン・3密・濃厚接触者・テレワークなど多くのコロナ用語が並びました。

「人生谷あり山あり」の言葉のように、2021年は、今年の谷のような暗い一年を打ち消すような明るい出来事を祈念したいものです。

MC・ライオンズ情報・地区誌・大会参加委員 日野克則

西条ライオンズクラブ

〒793-0027 愛媛県西条市朔日市779-8
西条商工会館3F

TEL(0897)56-3980

FAX(0897)56-9251

E-mail saijo-1c@abeam.ocn.ne.jp

ホームページ <http://saijo-lions.jp>

facebook <http://facebook.com/saijo.lions/>

発行者 会長 宮崎英明
幹事 伊藤正己
[MC・ライオンズ情報・地区誌・大会参加委員会]
委員長/副委員長 盛實正人/小野雅志
編集委員 越智英明・寺川治美・日野克則
安藤和浩・高田潤一